

留学を終えて

情報文化学科 2年 山崎佳那子

約4か月、ロシア極東に位置するウラジオストクのウラジオストク国立サービス経営大学（ВГУЭС）に留学してきました。

私は、もともと留学をするつもりではありませんでした。なぜなら、当時の自分のロシア語では、留学しても授業についていけずに、4か月の留学生活を無駄に過ごしてしまうのではと思っていたからです。また、私は一度も外国に行ったことがなく、ましてや、日本語の通じない環境で勉強するということが、他人事のように感じていたからです。しかし、周りの友達が留学に向けての準備を進めていく姿を見ているうちに、自分にとってこの留学がいかに重要なものになるかを真剣に考えるようになりました。そして、初めての外国へ旅立つ決意を固めました。いざ、留学をすると決めてからは、しなければならないことが多く大変でした。パスポートを作るために行った市役所で、持参した写真のサイズがパスポート用のものに合っていないことに気づいた時は本当に焦りました。この時、学務課へのパスポート提出の期限が迫っていたので、自分の準備の足りなさや行動の遅さを痛感しました。また、留學生活が漠然としかイメージできず、荷物の準備もなかなか終わりませんでした。

出国当日、私は深夜0時頃に地元の駅から夜行バスに乗って東京駅に向かいました。慣れない夜行バスの中ではほとんど眠ることが出来ず、留学への緊張も相まって、苦痛の6時間でした。その後、東京駅から成田エクスプレスに乗って成田空港に到着しました。スーツケースを自宅から空港まで送ってもらうサービスを往復で利用したので、移動中に大きな荷物がなく、非常に楽でした。空港を利用する2日程前までにスーツケースを営業所に預け、帰国した時は、空港内の営業所で預けた翌日にスーツケースが自宅に届きます。荷物の準備を早めに行なえばならないことと、帰宅後すぐに荷物を開けられないことが平気であれば、このサービスはおすすめです！成田空港で神永先生に見送られ、飛行機に乗り、ウラジオストク空港に着くと、プラーソル先生と留学先の大学の方が迎えてくれました。空港から大学まで、バスで約1時間でした。夜8時頃寮に着くと、夜ご飯にお弁当のようなものが用意されていました。これがロシアでの初めての食事でしたが、白米の上にマヨネーズで味付けされた鮭や人参の炒め物が乗っていて、思っていたより脂っぽくなくて食べやすく、食事への不安はほとんどなくなりました。実際、ロシアの食事はとても口に会いました。寮の各部屋に設備されていたトイレやシャワーは、当然日本で使い慣れたものとは様子が違い、慣れるまでに時間がかかりました。さらに、留学1日目から9月中旬まで寮の水道・シャワーからは全くお湯が出ず、大学敷地内の別の施設のシャワー室まで每晚通いました。それでも何回か水シャワーをしましたが、もう2度とあんな経験はしたくないなあと思います。また、お湯が出るようになってからも、シャワー中にお湯が水に変わったことがあり、留学中ずっと安定しませんでした。

初めてインターネットが使えたのは、留学3日目でした。電話で久しぶりにお母さんと会話したときは、まだ一週間も経っていないのに少し泣きそうになりました。当時はまだ

そこまで自覚はありませんでしたが、日本にいる家族や友達、日本そのものが恋しくなっていたのだと思います。大学の有料 Wi-Fi を使えるようになったのは、お湯が出るようになったのと同時期の9月中旬でした。それまでは、Free Wi-Fi が使えるカフェスペース等に通っていました。Wi-Fi が学内や寮で使えるようになってからは、生活がより快適になりました。そして、留学6日目から、いよいよ授業が始まりました。

○ 大学・授業

全ての授業がロシア語のみで進められ、最初の頃はほとんど聞き取れず、本当に大変でした。当たり前のことですが、授業で配られるプリントや教科書もすべてロシア語のみ。目に入る多くの単語の意味が分からず、当時は気が遠くなる思いでした。しかし、授業中は積極的に声を出し、分からないところがあれば先生に直接聞くことで、文法やリスニング力の向上につながりました。授業中でも授業後でも、先生によっては英語を交えて、親切に分かるまで説明してくれました。個人的に、長いテキストを読んで設問を解く授業が一番難しかったです。担当の Ольга 先生は、単語の発音や文法に厳しいのはもちろん、疑問文の中で声を跳ね上げる単語やそのアクセントの跳ね上げ方、いくつかの単語のアクセントの言い方等を重点的に指摘してくださいました。他の先生に比べ指摘が細かく、授業中は少しも気が抜けずに大変でしたが、その分私たちは長文を読み理解し、ロシア人らしく読み上げる力を身に着けることが出来たと思います。

九月中旬から始まった外国人との合同クラスでの授業は、中国韓国インドネシア等の国から来た留学生と一緒にロシア語について勉強しました。徐々にクラスに慣れていくと、休み時間にお話ししたり、休日には一緒に街に出かけてご飯をしたり、スポーツをすることもありました。

○ 寮

私たちが暮らしていた寮には、外国から来た留学生というより、ロシア人が多く暮らしていました。中国や韓国の留学生たちの多くは、隣の棟に住んでいました。寮の玄関近くには寮母さんの部屋があり、そこで鍵の貸し借りや飲み物やお菓子等の簡単な買い物ができました。寮母さんとは、鍵の貸し借りがあつて毎日必ず顔を合わせます。不愛想な人が多く、当初は声をかけづらかったですが、毎日挨拶していくうちに徐々に会話ができるようになりました。「朝からすごい雨だよ。傘ある？」や「外寒かったですよ？」等と声をかけてくれた時は、本当に嬉しかったです。台所や洗濯機は各階に共同のものが置かれていました。ほとんど毎晩ご飯をつくり共同の台所に行きましたが、私たち以外の人がいることは少なかったです。使い慣れない電気コンロには苦戦し、調理器具も限られていたので、台所が込み入ることも少なくありませんでした。

冬の間は、隣の棟までほんの少し歩けば、その棟からエスカレーターを使うことで屋内を歩いて通学することができました。エスカレーターは非常に快適でした。

掃除は、担当の方が平日のみですが毎日してくれました。ゴミも平日はきちんと回収してくれ、週に一度、シーツや枕カバーの交換もしてくれました。シャワーやトイレも適度に洗剤で洗っており、掃除のお姉さんたちのおかげで清潔に保たれていました。

○ イベント

ウラジオストクでの4か月の間に、たくさんの行事がありました。

授業が始まってすぐに行った初めての遠足では、ウラジオストクの中心地にある大きな広場で行われていたお祭りに行き、**каравай** と呼ばれるロシアの大きな丸いパンをたくさん見て、可愛い衣装を着た人たちに会えました。そして、9月28日は、“**день тигра** (虎の日)”と言われ、広場が人と虎で埋まるほどの大賑わいでした。



10月には、多くの留学生と担当の先生と電車に乗って海の近くに行き、BBQや様々なレクリエーションをしました。この時初めて交流する留学生も多くいましたが、レクリエーションを通して仲良くなれたと思います。

ロシアには、**хоровод** と呼ばれる踊りがあります。日本語で「輪舞」という意味で、その名の通り、人々が手を繋いで輪をつくって踊ります。ロシアの伝統楽器で演奏された音楽に乗せて皆で踊ります。ずっと動き続ける感じで、盛り上がって速度が速くなると、結構疲れます。何度か **хоровод** を体験しましたが、中心となる人によって踊りの内容が変わるので、本当に面白いです。最初は照れ臭くても、あまりの楽しさにそんなことも忘れてしまうと思います！

そして、私たちもコンサートを開催しました。音楽の授業で習ったロシアの伝統の歌を、伝統楽器で演奏したり、ロシア語で歌ったりしました。ロシア語の歌詞を覚えるのは、とても難しかったですが、音楽を習うのはとても楽しかったです。コンサート本番では、全員でロシアの民族衣装を着て発表しました。

その他にも、映画を見に行ったり、博物館・水族館に行ったりしました。ハロウィンの時期には、大学内で仮装の撮影会が行われ、年末になると、大きなクリスマスツリーが飾られ、1月7日のクリスマスに向けて盛り上がっていました。

行事の他にも、たくさんおでかけをしました。寮からバスに乗って中心地に行き、百貨店のようなお店が多くあるため、服や靴等の買い物をしたりしました。中心の広場で毎週開かれる市場では、多くの食品を比較的安い値段で買うことができ、また、それらを買う時にはお店の人とロシア語で会話をしなければならないので、とても便利でコミュニケーションの勉強にもなりました。寮から大きな橋を2つ超えて行くルースキー島へみんなで行ったり、バスを乗り換えて行く少し遠い市場があり、そこへ行ったりしました。

ロシア人の友達とも、何度か買い物に行ったり、彼女たちのおすすめのカフェでお茶をしたりしました。上手くロシア語で気持ちを表現できないことがよくありましたが、彼女は積極的に話かけてくれ、さまざまな内容について話をすることができました。また、街を歩きながら、「この名前分かる？」と聞いてくれ、単語の勉強にもなりました。ロシア人の友達は本当に優しい人ばかりで、楽しかったです。ロシアでできたロシア人の友達や留学生の友達とは、現在も SNS を通して交流が続いています。彼らは、これからも大切にしていきたい仲間です。

留学を終えた今、あの時留学への参加を決心して本当に良かったと心の底から思います。全て「楽しい」だけではなかったですが、それも含めて良い経験ができました。また、様々な国の人と直接交流することで、それまでの偏った価値観やイメージを正すことができました。最後に、私の背中を押してくれ、資金面や精神面で支えてくれた家族、「日本で待ってるよ！」と優しく声をかけてくれた日本の友達、このような素晴らしい機会を与えてくださった NUIS の先生や職員の皆様、ロシアで素晴らしい経験をさせてくれた БГУЭЦ の先生や職員の皆様、ロシアでの生活を支えてくれた森さん、そしてこの留学をより楽しく充実したものにしてくれたロシア留学の 17 人の仲間、全員に心から感謝しています。この留学で得たものを無駄にしないため、これからも勉強に励みたいと思います。ありがとうございました。

